

## 幕末から明治への新時代の地 —京都御所と伏見—

5/15/2017

北村社会福祉士事務所

代表 北村弘之

今回、異業種交流会でお世話になっている方と、春の京都の旅に出かけてきました。ちょうど、葵祭開催の前で新緑が映える街並みを探索できました。

### 【京都御所】

2016年より、通年公開となったことで、広い御所内は観光客で大勢でした。御所は京都御苑全体の3割程の面積ですが、それでも、広い(サッカー場で15面)。今回は御所の定期案内を利用して、小一時間の説明を宮内庁の職員から聴くことができました。



現在の京都御所は、明治維新までの天皇のお住まいであり、明治2年に天皇が東京に移られるまでの約500年間の生活そのものの場であり、宮中行事の場でもありました。職員の説明によると年間360の行事があったということですから、現天皇の公務の大変さがよくわかりました。また平成天皇の即位式は東京でしたので、その際に紫宸殿内(写真)の「高御座」と「御帳台」を東京に運んで式典をおこなったと聞きました。多分、次の天皇即位式の際にも、そのようになるのでしょう。御所内での説明は、建物の外側からのみとなりますが、若い宮内庁職員の見事な内容でした。

### 【寺田屋 伏見】

幕末の志士、坂本龍馬で有名な「寺田屋」。この伏見と近くの鳥羽は、日本の新時代の始まりの一つと言ってもよいくらいの場所です。と言いますのも、江戸幕府の大政奉還後、薩摩軍と旧幕府軍の戦いはこの地が戦場となったからです。



今回、訪れた寺田屋(写真)は薩摩藩の宿で、明治維新の画策を図っていた、坂本龍馬の伏見での常駐宿でした。伏見奉行所の役人に包囲され傷を負ったものの、のちに妻となるお龍と逃げることができたものです。現在でも当時の建物の中には柱の「刀傷」や「書」があり地元の保存会の人々が守っていたのが印象的でした。街並は、「竜馬通り」と名付けられ観光客の通り道となっていました。あとで知ったのですが、東京に移られた明治天皇は亡くなったあと、この伏見の地に御遺志として「伏見桃山陵(墓)」を建造されました。

また、この伏見は灘とならぶ、清酒の生産地であり、伏見の酒は甘口で女酒と言われ、灘の酒は辛口で男酒といわれているようです。我々は、月桂冠大倉記念館でお酒の説明を聞いたのち女酒を試飲しましたが、やはり地元で飲む酒はうまかったです。伏見という地名は、酒の水となる伏流水の伏流からということです。

### 【吉田山荘】

今回の参加メンバーで、旧宮家の別邸を料理旅館にした「吉田山荘」で昼食をいただきました。風情のある旅館で食事前の女将の説明では、泊り客の8割は海外の人ということでした。 以上



食事前の記念撮影(5/14/2017)